

大阪経済大学の「現場主義」教育改革

- 「人間的実学」を現代において具体化
- 2002年 経済学部地域政策学科を新設
- 既設の経済学科を含めて、フィールドワークを大胆に取り入れた体験型学習システムの構築を目指す
 - 現実社会の様々な問題解決の担い手
 - 地域社会や企業社会と積極的にかかわって、地域の人々や企業、行政がどのような問題に直面し、その解決に取り組む姿を体験的に学ぶことで育つ
 - = 教室に座って講義を聞き、学術書を学ぶだけでは不足



体験型学習体系を支えた基礎

- 2004年10月 地域活性化支援センターの開設
 - 経済学部がめざす現場主義教育の実現のため、行政、企業、市民団体(以下、関係団体)、個人と連携して地域社会が直面する問題の解決をはかり、それを通じた実習フィールド確保を目指す
- 2006年12月 ECOまちネットワーク・よどがわ結成
 - 2004年12月～2005年6月 経済団体、商店街振興会、市民運動団体、まちづくりシンクタンク等と取組み課題を協議
 - 自然エネルギーの普及を軸に、地球温暖化防止と地域活性化の両立を図る環境まちづくりを進めることを課題に
 - 2005年11月 「市民共同発電所づくり」実行委員会準備会発足
 - 2006年5月 「ECOまちネットワーク・よどがわ」準備会に
 - 2006年12月 ECOまちネットワーク・よどがわ結成総会
 - 大阪よどがわ市民生協、大阪商工会議所新淀川支部、よどがわ保健生協、大阪市民ネットワーク、あおぞら財団、自然環境会議八尾、環境問題の解決に関心を寄せる個人が参加
 - 自然エネルギー市民の会、気候ネットワーク、大阪自治体問題研究所等が協力

H18 大阪経済大学現代GP

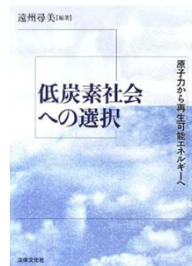
- 取組みの名称「地域に開かれた体験型環境・まちづくり教育 市民共同発電所づくりとまちづくり産業振興プログラムの創造」
- 課題
 1. 問題解決能力の開発を目指して整備した経済学部での体験型実習・演習体系を科目担当者の創意で近隣住民に開放して地域の課題を教育に反映させる
 2. 温暖化防止と地域活性化を結合するまちづくり産業振興プログラムの創造に学生参加で取り組む
 3. それらを通じて、循環型社会構築に資する地域連携型環境・まちづくり教育システムを構築する
 = 「まちづくり産業振興」という自然科学系とは異なる切り口で温暖化防止活動に貢献したい

H18 大阪経済大学現代GP

- 学生参加で取り組む5大プロジェクト
 - ① 市民出資による「よどがわ市民共同発電所」づくり
 - ② 「よどがわアジェンダ2010」「経大アジェンダ2010」の立案・提案
 - ③ 環境・まちづくりコミュニティビジネス「ECOまちビジネス」の創造
 - ④ 「ECOまちビジネス」を支える地域金融システムの検討
 - ⑤ 市民レベルの環境支援国際交流事業の展開
- 人材育成目標：問題解決能力の育成
 - 受動的に知識を学ぶというだけでなく、未経験の事態に直面しても、周囲の人々とコミュニケーションを図り、萎縮することなく前向きに事態打開に取り組もうとする姿勢・能力
- 学習への動機付け
 - 大学の授業を通じて社会に貢献しよう。貢献できる

ゲスト講師によるリレー講義

- 『地域政策オープンカレッジ』
市民開放講座 100名の学生と200名を超える市民が受講
 - 2006年度「地球温暖化対策の最前線」
 - 2007年度「低エネルギー社会の構築と脱化石を目指すエネルギー転換 争点と展望」
 - 2008年度「低炭素社会への道程」



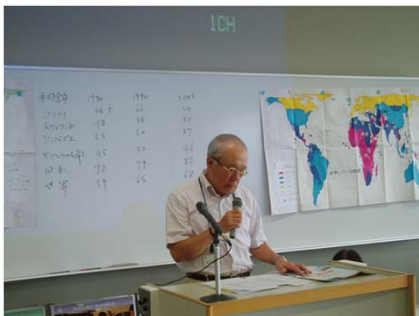
ゲスト講師によるリレー講義

- 『地域生活特殊講義・地域で築く循環型システム：菜の花プロジェクト I』
 - 第3プロジェクト「環境・まちづくりコミュニティビジネス「ECOまちビジネス」の創造」に対応
 - 滋賀県で始まった菜の花プロジェクトをモデルに資源循環型コミュニティの可能性を探る



ゲスト講師によるリレー講義

- 『地域政策特殊講義・国際ボランティア：貧困・環境問題を学ぶ』
- 第5プロジェクト「市民レベルの環境支援国際交流事業の展開」に対応
- 緑の地球ネットワーク」「日本ユニセフ協会」「JICA 青年海外協力隊」「ベトナム・タイニン省の地域リハビリテーションを支援する会」「アジア協会アジア友の会」が講師の派遣



視察・見学型の実習プログラム

- 「地域政策基礎実習（済州島短期実習）」



視察・見学型の実習プログラム

- 「海外工場見学」



視察・見学型の実習プログラム

- 「海外実習（ドイツ）」



追体験型実習プログラム

- 『地域生活特殊講義・地域で築く循環型システム：菜の花プロジェクトⅡ』



追体験型実習プログラム

- 『地域政策特殊講義・国際ボランティア：国際ボランティアに取組む』
 - 国際ボランティア団体の活動に40時間以上従事



実習の内容

*実際の運営作業への参加を中心に。

- 絵はがきや会員に送る封筒作成
- 内部の事務作業 (シール切り取り、シュレツターかけ等)
- 講演会の訪問
- 会員名簿の作成
- 募金の整理作業

基礎調査・開発調査

- 「基礎演習」(藤本高志教授担当)

大阪経済大学現代GP

みんなで止めよう温暖化

大阪経済大学のCO2排出量

2010年度目標 排出量の5%削減

2008年度は、排出量の7%削減に成功しました。みんなが取り組むことで、2010年度は目標を達成します。

2010年度は、目標の5%削減を達成します。

2010年度は、目標の5%削減を達成します。

2010年度は、目標の5%削減を達成します。

大阪経済大学現代GP

東淀川アジェンダ2010

みんなで止めよう温暖化

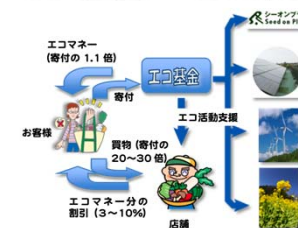
現代GP エコガサアジェンダチーム

本チームは、平成18年度環境省の「エコガサアジェンダ」に基づき、東淀川地域の環境改善を推進することを目的として、2010年度に活動を開始しました。本チームは、東淀川地域の環境改善を推進することを目的として、2010年度に活動を開始しました。本チームは、東淀川地域の環境改善を推進することを目的として、2010年度に活動を開始しました。

基礎調査・開発調査

- 「地域調査」(遠州尋美教授担当)

エコ基金 と エコマネー



- お客様の寄付金でエコ基金を作ります。
- 基金は自然エネルギーの普及や地域のエコ活動支援、シーオンプラザのエコ化のために使います。
- 寄付をした方は、寄付金額を10%上回る価値の有効期限付きエコマネーがもらえます (例えば、1000円の寄付に対して1100円分のエコマネー)。
- シーオンプラザでの買物額の一部 (例えば3~10%) をエコマネーで支払うことができます。

【期待できるメリット】

① シーオンプラザは施設のエコ化が容易になり、社会貢献でイメージアップがはかれます。

② 寄付をしたお客様は寄付金以上のエコマネーをもらって帰ります。

③ プラザ内のお店は、エコマネーで売上げがアップします (左を見て下さい)。

④ 地域はエコなまちとして活性化がはかれます。

学生実行委員会による市民共同発電所づくりの提案

市民共同発電所って何?

脱炭化の原因は化石燃料依存社会にある!

現在重要視されている地球温暖化問題。この解決策として注目されているのが、CO₂を排出しない再生可能エネルギーです。しかしその性質上、利便を図むことは難しく、企業が主体とならなくてはなりません。個人で取り組むことは困難です。そこで市民が立ち上がり、共同で取り組みたいという市民が資金を調達し、発電所を投資しました。それが市民共同発電所です。

しかし問題はまだまだ

政府自体の価格が高い、電力会社の買取り価格が低いなど、どうしても損をします。

目指すところ

さらなる普及によって、設備の低価格化、買い取り価格の引き上げをねらっています。

おひさま発電所

2010 徳島県グリーンファンドで、高松市の御油、高松市を中心に、市民共同発電所を建設する。全額、資金調達、発電所を稼働している。総額1億、そのうち7000万円は、市民共同発電所による収入。

おひさま発電所
 総額1億
 市民共同出資 4500万円
 民間出資 1500万円
 補助金 4000万円

おひさま基金
 総額1億
 市民共同出資 4500万円
 民間出資 1500万円
 補助金 4000万円

参加型であることが重要

こんな感じ
 両もものけて一石二鳥

体験場に市民共同発電所を建てよう
 学習施設の床、パネルを設置する量産型の建物を建設しました

体育館の屋根には屋根が欲しい!!

学生実行委員会による菜の花プロジェクトの推進

菜の花利用の循環サイクル

中環の森にて NPO 自然環境会議と交流

このプロジェクトを通し、中環の森でも活動しました。菜の花の種まきから、刈り取り作業まで行いました。また、授業では講義をしてもらい、より理解も深まりました。最終的にBDFは阪急バスの燃料にもなりました。



アグロペーパの製造を例にすれば、エタノール消費拡大 → 農地拡大 → 森林破壊 → 森林破壊被害の発生 食料問題も発生し、作物が減少する恐れもある。

菜の花では、今ある森林地帯の利用 → 菜の花を育てる → 炭素固定による → 特別しBDF 食料問題が起こる点についても農産物を使い循環型を扱うので問題なし。(循環サイクル)

大卒の授業で育ちました。

学生実行委員会による菜の花プロジェクトの推進

菜の花利用の循環サイクル

新淀川ESDと協力

大阪府立新淀川高校は、「菜の花プロジェクト」産地として、環境教育プログラムを教育に取り入れており、連携学習の場で現代GP 学生実行委員会と交流を行っています。

新淀川高校にある、節水型農業バイオエタノール生産機に搭載する小型プラント。

節水を減らす。早く早く育てています。

節水の設備内蔵。作り手に慣れるための設備。



アグロペーパの製造を例にすれば、エタノール消費拡大 → 農地拡大 → 森林破壊 → 森林破壊被害の発生 食料問題も発生し、作物が減少する恐れもある。

菜の花では、今ある森林地帯の利用 → 菜の花を育てる → 炭素固定による → 特別しBDF 食料問題が起こる点についても農産物を使い循環型を扱うので問題なし。(循環サイクル)

東淀川自転車マップづくり

3. 実地走行及びヒアリング

5. 地図に盛り込んだ内容

- ・節度ある自転車利用促進を目指して
- ・自転車利用に活かされるポイント
 - 各バス停(小)自転車専用スペース(自転車専用)
 - 自転車専用レーン等の 作りやすさ
 - 違法駐輪問題... 駐輪禁止区域、駐輪場の位置
 - 危険不安な場所・危険ポイント、一言コメント付き。
 - 走行マナー問題・自転車の心構えの条

5. 地図に盛り込んだ内容



鉄カフェプロジェクト

熊本市環境局によって共同開催いたします

商店街を明るく ふれあいの場 鉄道カフェ

学生・商店街・住民がつくる憩いの場



カフェの役割について

- 駅構内でのジオスタムを完備させておきます。ジオスタムは回収しつづける環境を構築します。
- 内装を緑化し、花ジョウもあやして、アロマを流します。学生をはじめ、さまざまな年齢層、多文化の集いの場、観光客を魅了する空間（ポイントア）でサービスタクを、自然の光、季節の香りとふれあいの場を創っています。
- 車として、日替り移動。
- 完成されたカフェは、学生オアシスと地域の交流空間（ご協力企業では特別）を創ります。

大塚建設株式会社 地域活性化支援センター
大塚市東区川尻大塚2-2-8
TEL: 06-93288-2403 (代)

体験型コミュニティカフェ 鉄カフェ

摂津市正雀本町1-36-9
大阪人間科学大学 コミュニティスペース2
学生の笑顔ご存じですか？

近年、大学による地域貢献活動、なかでもカフェの導入が、学生と地域との交流の場として注目されています。鉄カフェは、その一環として、地域の活性化を図ります。鉄カフェは、学生と地域との交流の場として注目されています。鉄カフェは、学生と地域との交流の場として注目されています。

大学生と小学生の絆に彩るびざり印刷

印刷、はじめての体験型カフェです。大学生、小学生による、地域づくりの場です。鉄カフェは、その一環として、地域の活性化を図ります。鉄カフェは、学生と地域との交流の場として注目されています。

ジオスタムを循環していただきます

ジオスタムは、環境に優しい素材です。大塚建設株式会社、大塚市東区川尻大塚2-2-8
TEL: 06-93288-2403 (代)

ほっかる回収&グリーン作戦

私たち現代GPは、今まで行われていたリサイクル回収「ほっかる」に目をつけ、リサイクル回収車の上を走らせようとした。そのとき、期待したビラが、こぼれた。

ほっかる回収中！！

食べた後の容器をどうしていますか？
その容器はリサイクルできます！！
食べ終わった後、お近くのほっかる回収ボックスまで、お持ちください。



ほっかる回収ボックス、回収と回収にあります。

ほっかる回収にご協力お願いします

レッツグリーン活動



紙入るゴミ	50kg
紙入るビン	25kg
カンペットボトル	60kg
たばこ	736本


これは、わたしたちが回収したゴミの量です。2週間1回おこなっているレッツグリーン活動のおかげで、結果です。

みなさん、どう思いますか？
おんごでキャンパス内をキレイにしませんか？
くわしくは、C館5階の環境教育センターまでお問合せ

☆ボランティア募集中☆

先進自治体・クロス調査・相互評価

日本の環境首都を目指す 熊本県 水俣市




経済学部 地域政策学科3回生 遠州ゼミ
山本 元

視察行程

- 1日目
水俣病資料館、吉本哲郎さんの講義
村丸ごと生活博物館(大川地区)
水俣市環境対策課
- 2日目
吉井 元市長の講義

水俣のイメージ

- 水俣病→工業地帯??
- 海→汚い??



アール・ホール建築事務所(昭和44年(1970)撮影) | 水俣市役所の水俣湾防風林(四国建設) | <http://www.sib-nies.go.jp/press/minamata.html>

水俣のまちづくり

- 環境の範囲とは、自らの生活圏である
- 「ゴミ・水・食べ物」にこだわったまちづくり
- 負の遺産からの価値転換
- 低炭素ではなく、「安心・安全」が第一

先進自治体・クロス調査・相互評価



『環境文化都市』 長野県・飯田市

経済学部 鈴木 一樹

IIDA CITY



A1108.100A 37.310999

長野県飯田市長官舎 01775404-03000000

なぜ飯田地域が注目を集めるのか？

飯田市では目指す都市像として、「人も自然も美しく、輝くまち飯田-環境文化都市-」

1. 京都議定書で定められた期間で日本国はCO2を6%削減する目標を掲げたのに対し飯田市ではCO2削減-1.0%の目標を掲げた。
2. 全国トップクラスの太陽光パネル普及率、2010年までに太陽光パネルを全世界の30%に設置する目標を掲げた。
3. 平成15年1月、自治体で日本初のISO14001「自己適合宣言」。

なぜ飯田地域が注目を集めるのか？

4. 市民出資による太陽光発電事業を市内有限会社が全国で初めて実施
5. 市民出資による太陽光発電事業に対し飯田市が公設民営の優待を20年間無償貸し出し、及び、すべての発電量を22円/kwhの買い取り契約を結んだこと。
6. 地元企業が中心となり、ISO14001を小規模な事業所でも取り組みやすいものに作り替えた「南信州いいむすび2」を作った。

等々

GP最終シンポジウム

平成20年度 大阪経済大学 現代GPシンポジウム
環境まちづくりの未来
 ―活力ある地域社会に向かって―

2009年2月28日(土)
 大阪経済大学 C館3階 C-31教室

受講無料

11時 開会式
 シンポジウム「環境まちづくりに関する行政と市民の役割 ―学生と市民の関わりによる地域活性化―」

12時 昼食
 学生講演「大規模GPの組織構築」

13時 講演「環境まちづくりの未来 ―行政、地域、そして大学―」

現代GP（地域に開かれた環境・まちづくり教育）
 大阪経済大学 地域活性化支援センター
 〒535-8523 大阪府東淀川区大磯2-2-8
 TEL: 06-6328-2431(代) FAX: 06-6328-7771 MAIL: machi@kuribosaka-u.ac.jp
 ECOまちネットワークよどか

2009年2月28日(土) 13:00-17:00
 大阪経済大学 大磯キャンパスC館
 主催 大阪経済大学 現代GP、地域活性化支援センター
 協賛 東淀川まちづくりセンター

シンポジウム
 13:00-14:00
 14:00-15:00
 15:00-17:00

交通アクセス
 最寄り駅 大磯駅
 最寄りバス停 大磯駅前

申込について
 申込先 大阪経済大学 地域活性化支援センター
 〒535-8523 大阪府東淀川区大磯2-2-8
 TEL: 06-6328-2431 FAX: 06-6328-7771
 MAIL: machi@kuribosaka-u.ac.jp
 URL: http://www.kuribosaka-u.ac.jp/gp/

申込・申込締切日 2月14日(火)

06-6328-7771

海図のない世界

- 100年に1度の経済危機
- 地球温暖化の深刻化
- グローバル化
- 縮小する社会

問題解決能力の育成

- かつてない危機の時代をどのように切り開いていくのか
- それを担う人材を育てたい
- この人材育成目標は教室では達成できない
 - 学問は、現実に存在する事実、人間が過去に積み重ねて来た経験の知識化
 - 未だ経験していないことは、教室や教科書に答えはない
- 答えは実践の中に**

学生を現実社会に曝す

- 先進的取組みを重ねている現場を見聞し、現場の当事者から直接学ぶ
- しかし、それだけでは身に付かない
- 地域の人々、地域社会と実際に地域の課題を解決するプロジェクトに、学生参加で取組む
- 現代GP学生実行委員会の成長が、取組みの成果の証

パートナーシップが 私たちの財産

- 大学だけでは達成できない
- 学外の多くの方達, 地域社会とのパートナーシップで

- 築いて来た様々なネットワーク
- 「ECOまちネットワーク・よどがわ」との絆が最大の財産